

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	2	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【一般目標：G10】
公衆栄養学 I、II を通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学 I では、日本を中心に、①公衆栄養学の概念と枠組みと計画・実施・評価の進め方、②社会における栄養問題の実態把握、③公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、④主要な栄養政策や栄養プログラムについて、ディスカッション形式を入れながら主体的に学ぶ。

- 【行動目標：SBO】
1. 公衆栄養学の概念と公衆栄養活動の目的について説明する。
 2. ヘルスプロモーションと関連づけて公衆栄養活動の計画・実施・評価の枠組みと手順を説明する。
 3. 日本人の健康、栄養状態、食生活、食環境等のデータを分析し、現状と課題を読み取る。
 4. 日本の栄養政策について（特に制度基盤、食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食生活指針、健康日本21 など）目的と概要を説明する。
 5. 自治体の役割と公衆栄養プログラムについて、全体像を理解し、その内主要なものについて資料をもとに説明する。
 6. 国際的な栄養問題の主要なものについて、現状、原因、対策について、資料をもとに説明する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	公衆栄養学の概念（生態系、地域、集団、保健医療福祉介護システム）	1	講義
2	公衆栄養活動の目的（生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、エンパワメント、疾病予防）	1	講義
3	公衆栄養マネジメント、公衆栄養アセスメントの枠組み	2	講義
4	日本人の健康、栄養問題の現状と課題：①高齢社会と健康・栄養問題、②健康状態の変化、③食事の変化、④食生活の変化、⑤食環境の変化などについて、「国民栄養の現状」などのデータをもとに構造的に把握する。	3	講義
5	グループ発表とディスカッション、補足説明：①課題と要因の構造図、② データを用いた説明	3	ワークショップ
6	同上	3	ワークショップ
7	日本の栄養政策：食事摂取基準	4	講義
8	同上	4	講義
9	日本の栄養政策：①公衆栄養活動の歴史、②公衆栄養活動の制度的基盤、③栄養士・管理栄養士養成制度、④国民健康・栄養調査、⑤食生活指針、運動指針、休養指針、⑥健康日本21と地方計画策定	4	講義
10	同上	4	講義
11	自治体の公衆栄養活動：県・保健所のプログラム	5	講義
12	自治体の公衆栄養活動：市町村のプログラム	5	講義
13	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—先進国	6	講義
14	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策—発展途上国	6	講義

【使用図書】

<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
------	-------	-------	--------------

教科書	公衆栄養学（出版社未定） 国民栄養の現状 最新版 日本人の食事摂取基準2005年版 日本人の食事摂取基準の活用	健康・栄養情報研究会 健康・栄養情報研究会 健康・栄養情報研究会	第一出版 （出版社未定） （出版社未定）
-----	--	--	----------------------------

参考書

その他の資料

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席 20% 積極的参加 20% 期末試験 60%	参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。社会的な事象に興味をもつこと。

健康栄養学科 専門